

第 1 2 回青森県民駅伝競走大会レースの概要

第 1 2 回青森県民駅伝競走大会が 9 月 5 日（日）、青森市で行われ、県内全市町村の代表選手が郷土の誇りをかけて健脚を競った。

今回、開会式の時間を 10 分早め、10 時 20 分に変更して開催した。

スタート並びにコースは、昨年同様本県の産業振興の拠点である、いわば「青森県の顔」とも言うべき県観光物産館アスパムの玄関口をスタート地点とし、国道 4 号線使用の第 1 区コースを皮切りに、8 区間（33.8 キロ）にわたって実施した。

当日は、日和に恵まれ、気温 26 度前後、湿度も 71 パーセントと選手にとってはまずまずのコンディションであった。

スタート地点は、陸奥湾から流れる潮の香りが選手たちの心を和ませ、正午ちょうど大会長代理・蝦名副知事による号砲が鳴り響くと、巨大な正三角形の建築物を背に、県下 66 市町村を代表する第 1 区走者が閃光を放つように飛び出した。

第 1 区〔アスパム前～合浦公園 / 高校生以上男子〕は、距離が短く直線でありスピードがより要求され、仕掛けどころが注目される区間である。

序盤は全選手が固まった状態であったが、その後、むつ市の板垣陽介選手（海上自衛隊大湊航空隊）、五戸町の和田卓也選手（青森大学 2 年）、野辺地町の江刺家義浩選手（青森大学 3 年）らが先頭に立ってレースを引っ張る展開となった。

第 2 区〔合浦公園～野内 / 中学生男子〕は、1 位と 2 位の差は 8 秒差。トップでタスキを受けたのはむつ市の山内翔平選手（函館ラ・サール中 2 年）。

次いで、五戸町の前田諒介選手（五戸中 3 年）、野辺地町の田村優典選手（野辺地中 3 年）が追う展開だが、むつ市が落ち着いたレース運びでトップのまま 3 区へ。

また、この区間で力走を見せたのは区間新記録を出した八戸市の片桐匡浩選手（白銀中 3 年）。23 人抜きでチームを 3 位まで押し上げた。

そのほかに、東北町の小坂大輔選手（東北中 3 年）も 20 人抜きの区間新で 2 位に浮上させた。

第3区〔野内～諏訪沢ノ高校生以上男子〕では、むつ市の河野仁志選手（協同印刷工業株）が力走をみせ、更に後続の大差をつけていた。

2位以下は東北町・青森市・弘前市の順。

第4区〔諏訪沢～戸山団地ノ高校生以上男子〕は、むつ市の船木和寿選手（大平小教員）が、トップでタスキを受けると、落ち着いた走りでも次の中継所を目指した。

後を追う青森の岩瀬真選手（青森自衛隊5連1中隊）や中里町の伊藤達哉選手（青森大学1年）もいい走りを見せたが一步及ばなかった。区間賞も船木選手だった。

第5区〔戸山団地～幸畑ノ中学生女子〕は、大会コースで一番短い2.5キロの区間であるが、トップを行くむつ市の倉光妙選手（大平中3年）は、差を広げていった。

2位青森市、3位東北町、4位八戸市、5位は南郷村で依然変わらず、9位につけていた浪岡町の佐藤真己選手（浪岡中2年）が昨年もこのコースの経験者であり、ぐんぐんと追い上げ区間賞も出し、6位に躍進した。

三沢市の苫米地由香選手（堀口中1年）も順位を5つ上げ10位につけた。

第6区〔幸畑～流通団地ノ高校生以上男子〕では、先頭から、むつ市、青森市までは依然変わらず。むつ市の江村健太郎（順天堂大学4年）は余裕のレース運びで区間賞。

また、6位でタスキをうけた浪岡町の対馬広将選手（浪岡町役場）が順位を上げ3位につけた。

第7区〔流通団地～細越ノ中学生以上女子〕は、依然として、むつ市と青森市がトップ争いを繰り広げ、その後ろを浪岡町、東北町、八戸市と熾烈な3位争いを繰り広げた。

その3位争いを制したのが、東北町の鶴ヶ崎友美選手（青森山田高3年）だった。

第8区〔細越～県総合運動公園陸上競技場ノ中学生男子〕では、むつ市がトップでタスキをつなぎ、最終ランナー北城直也選手（大平中3年）が青森市を総合で1分27秒引き離し4年連続3度目の総合優勝を手にした。

また、2位は青森市。3位八戸市、4位東北町。続いて5位は浪岡町の順でそれぞれゴールした

《市の部》

むつ市は、昨年の第1位の貫禄を見せ、1、2区でやや後退した以外は全てトップを保持して堂々の4連覇を成し遂げ、総合成績でも3連覇を達成した。

しかし、今回は最終区まで青森市の追い上げなどもあり、最後まで目が離せなかった。3位は昨年に続き八戸市であった。

《町の部》

東北町が5区で町の部トップに立って以降トップを譲ることなく、総合でも先頭のむつ市、青森市を必死に追い続け、10年連続11度目の優勝を遂げた。

また、5区以降は、浪岡町を大鰐町が追う展開で2位争いを繰り広げたが、最後は浪岡町に軍配が上がった。

《村の部》

南郷村が4区でトップを走る福地村を追い抜き、その後も勢いに乗ってリードを広げ、村の部5連覇を達成した。また、東通村と六ヶ所村は、後半以降2位の座を守ろうと競い合ったが、最後は28秒の差で東通村が制した。